

ヒルフェ通信(10月号) ❖そっと寄り添いやさしくサポート❖

「公益社団法人成年後見支援センターヒルフェ」は東京都行政書士会が社会貢献の一環として設立した法人です。



◆地区連絡協議会が開催されました

9月18日(火)本会2階201・202会議室におきまして、地区連絡協議会が開催されました。年に一度、33地区の地区リーダーが招集されて行われています。

常住理事長のご挨拶から始まり、地区活動の趣旨、地区活動費について、新入会員の状況、パンフレット等の販促物について各担当理事より説明が行われました。地区活動は、ヒルフェの活動の大変重要な位置づけであり、各地区の活動も活発になり受任実績も上昇傾向にあるという報告もありました。質疑応答の後、休憩をはさみ、ブロック統括理事である高橋常任理事より、「今後の活動支援について」というお話がありました。

理事長が提言する「一人1件の成年後見案件受任を！」をめざし、これにどう取り組むかをテーマに、大きく4つに分けて取り組むべき課題や提案を熱く語られました。

1. 自治体における成年後見促進基本計画の策定における「地域連携ネットワーク」づくりへの関わりの取り組み
2. 社協との連携に苦慮している都内23区内の地区の取り組み
・要望書の利用・「社協」の情報収集・地域ケア会議への出席等
3. 各種のお役立ち情報の収集→各地区への情報提供&支援



4. 各地区の地区活動のサポート(提案)

・地区連絡協議会の有効活用→情報提供の場、地区会員への伝達・ブロック会議やブロック研修会への出席や支援・各地区の自治体による成年後見制度利用促進事業の調査等

その後、地区からの報告として、それぞれ内容は違うものの、自治体や社協との関係が良好な中で活動ができている町田地区、立川地区、田無地区からの報告がありました。そして最後に全地区リーダーがそれぞれ地区活動の現状を報告されて終了となりました。これまでは各地区の報告は3ブロックに分かれて行っておりましたが、今回は全体で発表したため、近隣地区以外の活動も知ることができました。

今回の地区からの報告の中で印象深かったのは、当初は個人的なつながりからの関係が地区として広がった例、これまでずっと関係が構築できなかったのが先方の異動などによる人員構成の変更により好転したといった例が何件かずつあったことです。ただ、いずれも地道に訪問など関係性を築く努力を続けられていたからこそその成果であったのだと痛感しました。地区それぞれの課題はあるかと思いますが、確実に地力をつけ、地域に浸透しつつあることを感じられた大変有意義な会議でした。

◆東京都行政書士会主催 第5回遺言・相続手続・成年後見 相談会 相談員派遣

9月7日午後1時から午後4時の間、新宿駅西口地下イベント広場におきまして、東京都行政書士会主催「公証人と行政書士による 第5回遺言・相続手続・成年後見 相談会」が開催されました。市民相談センターより相談員の派遣要請を受け、ヒルフェからは理事の高山が相談員として参加いたしました。

新宿駅西口地下イベント広場の前を通行する多くの方に関心を持っていただき、10数か所ある相談ブースがほぼ満席の状態が続きました。相談者の中には成年後見に関する相談をされる方もおられました。市民相談センターの集計によると相談件数は合計77件もあり、これまでの最高件数とのことです。通行される方へのお声がけも積極的に行いましたが、飛び入りでご相談に入られた方も、お話をうかがうといろいろと問題を抱えている方もおられ、潜在的に相談を必要とされている方は多いのだと感じました。今回も成年後見制度やヒルフェを知っていただく貴重な機会となりました。

